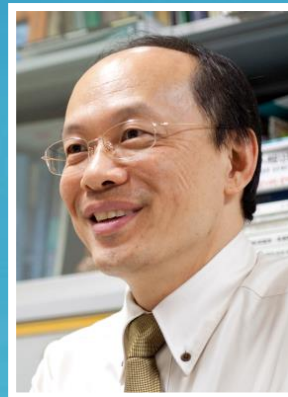


日時：2016年12月8日（木） 17：30～

場所：第2会議室（外来診療棟4階）



徳永 勝士先生

東京大学 大学院医学系研究科
人類遺伝学分野 教授

複合疾患関連遺伝子の探索： HLAとnon-HLA遺伝子群

(Search for susceptibility genes to complex diseases: HLA and non-HLA genes)

HLA分子は、多様な外来あるいは自己由来の抗原に対する免疫応答の制御に重要な役割を果たし、機能を持つ遺伝子として最高度の多型を示すことが知られている。疾患感受性との関わりについても、候補遺伝子アプローチやゲノム全域関連解析（GWAS）によって150種を超える疾患との関連が報告されている。我々はさまざまな多因子疾患や薬剤・治療応答性に関する国内・国際多施設共同研究に参加して遺伝要因の探索を担当してきた。その結果、ナルコレプシー、1型糖尿病、関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、B型およびC型肝炎ウイルス関連疾患、原発性胆汁性胆管炎、自己免疫性肝炎、Stevens-Johnson症候群、結核、インスリン自己免疫症候群、特発性膜性腎症などについて、特定のHLA遺伝子多型との関連を見出してきた。これらの経験に基づいて、SNPを用いたGWASでは必ずしも第一義的HLA型を特定できない場合があること、HLAリスク型による層別化によって新たなnon-HLA感受性遺伝子が検出される場合があること、HLAとnon-HLA遺伝子の相乗的組合せ効果が見られる場合があること、感染症においてはしばしば病原体の多様性に依じてHLA関連性が見られること、などを紹介したい。

・大学院「先端医学トピックス」講義としても開講します・